

車掌用体験学習型VR—HMD

Virtual Reality – Head Mount Display for Educating Train Conductors

概要

駅ホーム上での乗降客の安全確保においては、車掌の「視認」と「判断」が大きな役割を担っています。

本展示では、ドア開閉時の安全確認の仕方を教育するために開発したヘッドマウントディスプレイ（HMD）を用いた体験学習型バーチャルリアリティ（VR）教材を紹介します。

特徴

- 実際の駅ホームに360度カメラを設置し、車掌から見た駅ホームの映像を撮影しました。
- 撮影した映像から訓練課題となる場面を抽出し、以下の3つの教材を作成しました。
 - ① ホーム形状の違い等を体験する教材
 - ② 要注意ポイントを教育する教材
 - ③ 視認対象をフィードバックする教材

用途

- 全車掌に対して、同一の条件で、同時に訓練することができます。
- 様々な状況下における車掌の「視認」、「判断」事例の蓄積と共有化が可能です。

■ 車掌による乗降の安全確認



■ VR-HMDの映像



■ 訓練での使用イメージ



（鉄道総研 人間科学研究部 人間工学研究室と共同で開発しました。）
（駅ホームの撮影においては、小田急電鉄株式会社様にご協力いただきました。）
特許出願準備中

■ホーム形状の違い等を体験する教材

様々な条件の駅ホームを撮影



	直線ホーム	曲線ホーム
昼		
夜		

■要注意ポイントを教育する教材

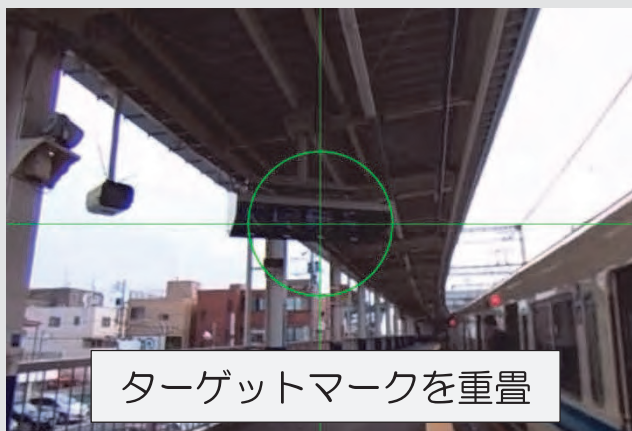
どこに気を付けますか？



- 階段付近の混雑の後ろ
- エレベータ付近のベビーカー
- 黄線の上を歩く人
- 階段からの駆け込み
- ベル後の駆け下り
-

■視認対象をフィードバックする教材

ターゲットマークを重畳



視認対象を可視化

